Volume 66– 2012 年12 月

JRRN Newsletter

日本河川・流域再生ネットワーク http://www.a-rr.net/jp/

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)は、河川再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に2006年11月に設立されました。また、日中韓を中心に活動する「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に海外の素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担います。

目 次 Pages

- JRRN 事務局からのお知らせ …… 1
- 会員寄稿記事 …… 4
- 会議・イベント案内 …… 15
- 書籍等の紹介 …… 15
- 会員募集中 …… 16

JRRN 事務局からのお知らせ(1)

『PRAGMO 日本語版 河川及び氾濫原再生の順応的管理に向けたモニタリングの手引き』発行案内

英国河川再生センター(RRC)、JRRN 会員、及び筑波大学白川（直）研究室のご協力を得て作成を進めてきました「PRAGMO 日本語版」が遂に完成致しました。

■冊子名：「PRAGMO 日本語版 河川及び氾濫原再生の順応的管理に向けたモニタリングの手引き」
■原著者：英国河川再生センター
(RRC: The River Restoration Centre)
■発行：ARRN、JRRN
■監修：白川直樹 筑波大学システム情報系准教授
■翻訳：JRRN 会員ボランティア（10 名）及び事務局
■編集：筑波大学白川（直）研究室『川と人』ゼミ及び JRRN 事務局
■発行年月日：2012 年 11 月 21 日（水）
※本書は、河川整備基金の助成を得て作成しました。

PRAGMO 日本語版 表紙

この PRAGMO では、河川再生の順応的管理に向けたモニタリングの考え方や具体的な手法が丁寧に紹介されています。特に、モニタリグを実施しながら河川再生事業の評価を行い、よりよい方向に事業を軌道修正する順応的管理の考え方を前提に、簡単にできるモニタリングから高い専門性を要するモニタリングまで分かりやすく解説されているのが特徴です。

この度翻訳しました「PRAGMO 日本語版」の更なる日本での活用に向けては、日本の河川で求められる様々なノウハウを追加していく必要があり、今後も皆様からたくさんの助言を頂き、更に役立つ手引きにしていければと考えていますので、本書に対するご感想や要改善意見等を JRRN 事務局まで頂ければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

※本冊子（製本版）の入手方法

PRAGMO 日本語版冊子をご希望の方は、送付先の住所・氏名を JRRN 事務局までご連絡ください。

JRRN 会員(個人・団体)限定サービスとさせて頂き、送料のみご負担（着払いで送付）頂いた上で、**無料でご提供致します**。なお、非会員の方は、JRRN 会員登録（無料）の上、お申込下さい。(事務局担当：後藤)

Email: info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862

※電子版（PDF 版）の入手方法

PRAGMO 日本語版電子版をご希望の方は、以下よりダウンロードできます。

http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/60

（JRRN 事務局・和田彰）

JRRN 事務局からのお知らせ(2)

JICA 草の根技術協力「フィリピン共和国イロイロ市におけるコミュニティ防災推進事業」研修支援報告

CITYNET（アジア太平洋都市間協力ネットワーク）及び横浜市が実施する JICA 草の根技術協力「フィリピン共和国イロイロ市におけるコミュニティ防災推進事業」に関わる研修行事が 11 月下旬に日本で開催され、11 月 27 日（火）に JRRN が研修の一部に協力させて頂きましたので、その概要をご報告致します。

【1】11 月下旬の来日研修の概要

水害の頻発や水環境の悪化に直面するフィリピン国イロイロ市の職員及び地域コミュニティ代表者が、日本における防災や環境改善に向けた取組を学び、更にイロイロ市における防災の推進に向けた行動計画を作成することを目的として約 2 週間の行程で来日しました。本研修では、JICA 横浜センター等での防災全般の講義、及び鶴見川流域をフィールドとした流域管理・河川管理・下水処理・水防活動等を中心に講義と実地の研修を行い、各研修員がワークショップ形式で 1 年後、2 年後、更に長期の防災アクションプランの策定に取り組みました。

なお、フィリピン国イロイロ市の概要は、本研修協力のきっかけとなりました、以下の「第 1 回フィリピン国際河川サミット参加報告」をご参照下さい。

http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/48

【2】JRRN 研修協力の概要

JRRN では、「都市河川の環境再生」を主テーマに、水災害軽減に取り組む中でも河川環境保全に向け留意すべき視点を理解し、また日本の現場における具体の取組みや工夫を学んで頂くことを目的として、講義と現地視察で構成される研修プログラムに協力させて頂きました。（2012 年 11 月 27 日（火））

午前の講義の様子

午前の講義形式の研修では、はじめに日本の都市河川再生事例とその成功要因を簡単に紹介させて頂き、その後「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.2」を教材に、防災と環境保全の視点を踏まえた都市河川再生の考え方について解説しました。

旧中川の視察（東大島駅付近）

北十間川の視察

また午後には、江東内部河川の旧中川、北十間川、更に隅田川等を回りながら、イロイロ市と同様の特徴を持つ低平地河川における防災と河川環境改善に向けた取組みを視察しました。中でも、旧中川における賑わい創出に向けた諸事業、また河川管理者による川沿いの散策・観光マップ製作などに対し、研修員から多くの質問を受けました。

JRRN では、今後もこうした研修活動への協力を通じ、日本を含むアジアの各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与してまいります。

（JRRN 事務局・和田彰）

JRRN 事務局からのお知らせ(3)

「第 7 回 ARRN 運営会議」「第 9 回 ARRN 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」開催速報

2012 年 11 月 24 日（土）午前に、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の「第 7 回運営会議」が中国・北京市にて開催されました。この会議では、ARRN 設立以降 6 年間の任期を務めた ARRN 会長（玉井信行東大名誉教授）及び ARRN 事務局（JRRN）から、新 ARRN 会長（Zhiping Liu 中国水利水電科学研究院副院長）及び新 ARRN 事務局（CRRN：中国河川・流域再生ネットワーク）へと交代し、新体制による ARRN のスタートを切りました。

また同日午後には、ARRN/CRRN 主催『第 9 回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム～都市流域圏の包括的取組と統合的管理』が、4 年ぶりに中国・北京市にて開催されました。日本・中国・韓国から合計 5 本の河川再生に関わる講演がなされ、参加者を交えた活発な意見交換が行われました。

中国における運営会議及び国際フォーラムの詳細は、JRRN ニュースレター2013 年 1 月号にて改めてご紹介させて頂きます。

第 7 回 ARRN 運営会議の参加者

第 9 回 ARRN 国際フォーラムの様子

JRRN 事務局からのお知らせ(4)

12/1 講演会 「市民による河川環境の見かた・調べかた～英国『PRAGMO』に学ぶ～」開催速報

荒川流域ネットワーク　・恵小百合代表のご講演

総合討論の様子

2012 年 12 月 1 日（土）、JRRN/ARRN/RFC 主催『市民による河川環境の見かた・調べかた～英国「PRAGMO」に学ぶ～』が東京にて開催されました。

英国河川再生センターからの PRAGMO 紹介、及び荒川流域ネットワークからのモニタリング活動の実践に関わる基調講演に続いて、市民主体のモニタリング活動推進に向けた課題や今後の展望について、講演者を含む有識者を交え活発な議論が行われました。

二つの基調講演の内容及び総合討論の詳細は、後日講演録として皆様にご紹介させて頂きます。PRAGMO 日本語版と合わせ、河川再生の推進に向けご活用頂ければ幸いです。

また講演会当日の講演資料は、以下よりご覧いただけます。（12 月中旬掲載予定）

http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/164

（JRRN 事務局・和田彰）

川系男子の『川と人』めぐり No．８～中国地方『川と人』めぐり

坂本貴啓（筑波大学大学院 生命環境科学研究科 博士前期課程　白川直樹研究室『川と人』ゼミ）

『川と人』めぐり

研究室のゼミ名『川と人』ゼミという言葉をもじって、『川と人』めぐりのタイトルで連載していきます。テーマは川と人。川が好きでしょうがない『川系男子』が川めぐりをしながら、川への思いや写真・動画などをご紹介していきます。

１．神在祭の頃に

10 月の九州『川と人』めぐりの余韻の冷めぬ間に，中国地方を旅することとなった（河川市民団体の活動量の定量化に関する調査）．中国地方の川は太田川と高梁川以外は初めてであった．期間は 2012 年 11 月 24 日（土）～30 日（金）．前後の寝台特急移動まで入れると 9 日間の旅だ．

23 日，東京駅を夜 10 時過ぎに出発．寝台特急サンライズ出雲にて現地へ向かう．寝台特急に乗ったのは初めてで，個室のベッドにゴロゴロしながら，車窓の風景が変わって行くのは移動秘密基地の持ち主にでもなったようでわくわくする．いざ，電気を消し，寝ようとしても車窓の風景が気になり，ほとんど眠れなかった．（「あ，今，木曽川渡った！あ，今，琵琶湖のほとり走ってる！」など，日本河川図と GPS で現在地を確認しながら車窓を眺めていると寝る暇がない．）横になって，夜空の星をぼんやり眺めているうちにいつの間にか眠りに落ちた．

早朝日の光が窓から差し込み目が覚めた．寝ぼけ眼で上半身を起こし，窓の外をみると，どこかの山の中の川沿いを走っているようだ．なにか見たことある光景だなと思ったら，昨年来た高梁川（岡山県）であった．昨年夏に太田川河川事務所に夏期実習に 2 週間行った時の休暇を利用して，源流から周った川でみずみずしい夏の川の風景に感激して，川で遊び周った．山は夏の青々しさとは違い，黄金色に色づいていて，晩秋の高梁川も美しい．寝間着姿のまま，朝起きて初めて見た光景が名流高梁川の晩秋風景とは何とも贅沢だ（写真１）．列車は高梁川を遡り，中国山地の奥に入って行き，高梁川の流域を越え，山陰側に入った．

10 時過ぎに出雲市駅に到着．いよいよ中国地方川と人めぐりがはじまる．まずはスタートの川は斐伊川なのだが，午前中は時間に余裕もあるので，まずは出雲大社へ．日本各地が神無月の頃，出雲には全国の八百万の神々がお集まりになり，神在月となる．訪問した時はちょうど，旧暦の 10 月で，出雲は神在月．そして偶然なことに，訪問初日は神様をお迎えして行う，『神在祭』が執り行われる．この偶然は八百万の神々のお導きだと勝手に解釈し，出雲大社へ参拝に向かった．参道は多くの人で賑わっており，参道を歩くに連れて，この参道にもあらゆる神様がいらっしゃるのかと思うと，自身の背筋がしゅんとするのを感じた．出雲大社と言えば，『大国主大神（おおくにぬしのおおかみ）』で知られる，縁結びの神である．また，今回僕らが周る各々の川の神様もおいでかもしれない．八百万の神々さまに川と人めぐりが様々な川と人のご縁を結ばれるように祈願し，中国地方『川と人』めぐりは始まった．余談だが，お賽銭はもちろん，111 円（＝川）である．

表１　中国地方『川と人』めぐり訪問先

日にち	午前	午後	訪問先・訪問行程
11月24日（土）	★出雲大社 斐伊川	斐伊川 高津川	出雲大社（神在祭） NPO法人斐伊川流域環境ネットワーク NPO法人アンダンテ21
11月25日（日）	高津川	佐波川 （小瀬川）	佐波川に学ぶ会 水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊
11月26日（月）	太田川	太田川 （高梁川）	太田川河川事務所（1日事務所長参加） NPO法人雁木組 ポップラ　ペアレンツ　クラブ
11月27日（火）	江の川	芦田川	三次市役所（副市長表敬訪問） 三次河川国道事務所 灰塚ダム管理支所 ウェットランド団 八田原ダム管支所 視る・見る館 福山河川国道事務所 芦田川環境マネジメントセンター
11月28日（水）	旭川	旭川 （吉井川）	岡山河川事務所 旭川流域ネットワーク（源流の碑除幕式）
11月29日（木）	千代川	（天神川） 日野川	NPO法人八東川清流クラブ 鳥取河川国道事務所 鳥取県地域づくりセンター 倉吉河川国道事務所 日野川河川事務所 島根大学佐藤裕和先生
11月30日（金）	斐伊川	斐伊川 ★出雲大社	宍道湖湖岸線親水度調査 宍道湖自然館ゴビウス 尾原ダム管理支所 NPO法人さくらおろち 出雲河川事務所 出雲大社（神去祭）

写真１　寝台特急の早朝の車窓からの高梁川

２．斐伊川

NPO 法人斐伊川流域環境ネットワーク

出雲大社から松江に向かうため，電車に乗ると田園地帯の彼方には宍道湖が見える．宍道湖沿いに生えるアシがのどかな湖面を演出している（写真２）．
松江に到着し，宍道湖のほとりで，斐伊川流域環境ネットワーク（愛称，斐伊川くらぶ）の理事長の飯田幸一さんにお会いした．斐伊川くらぶは 1998 年にはじまった活動で，主に，宍道湖ヨシ再生プロジェクトや斐伊川上下流交流などに取り組んでいる．

調査趣旨に関して，お話しすると，自身でも課題と思っていた箇所を指摘され，その上で多くの建設的なアドバイスをいただいた．飯田さん曰く島根県は金・人・ノウハウなどが不足しているという．現状を踏まえて，斐伊川を資源ととらえることが重要と国土均等論の観点からお話しいただいた．

流域圏とは持続可能な再生産の場であり，川そのものは何人かを養える力を持っている．これを活かさない手はなく，現状では，河川は国交省，農業用水は農水省，水道は厚生省とお互いの領域をシェアできていない．だからこそ，流域をキーワードに『創造的空間領域』が必要だという．また，日本の流域は他国の流域に比べ，一つ一つが箱庭のような地域であるからこそ，流域圏でものを動かす仕組みが導入できるという．九州川めぐりでも川内川や五ヶ瀬川の人も話されていたように流域単位の自治がはじまる時代はもうそこまで来ているのかもしれない．

ところで，かっこいいおじさんは各地にいるもので，飯田さんもその一人．別れ際もかっこいい．「君たちにこの言葉を贈ろう．『書を読むのに飽きたら人に会い，人に会うのに飽きたら野を歩け．野を歩くのに飽きたら書を読め.』」そんなかっこいい飯田さんがスケッチブックのメッセージボードに残してくれたメッセージは『消費期限切のおやじ』.

写真２：宍道湖の湖岸沿いのヨシ原

３．高津川

NPO 法人アンダンテ２１

飯田さんと別れた頃にはもう夕方で松江から特急に乗り，急いで島根県益田市に向かう．一旦江の川（ごうのかわ）は素通り．益田駅についたのは夜 19 時を回っていたが，アンダンテ２１の理事長の豊田武雄さんが出迎えて下さった．皆さんそうなのだが，お忙しい合間を縫って，私達に時間を割いていただいた．
NPO 法人アンダンテ 21 は 1997 年に発足した団体で，『アンダンテ』という意味はイタリア語で『ゆっくり』という意味．高津川の流れよりもゆっくりかもしれないがゆっくり地域を変えていこうという意味からきているそうだ．

高津川は NPO 法人の市民団体も少なく，川をキーワードに活動する市民団体となれば，アンダンテ 21 の活動くらいだそうだ．清流日本一で知られる川だが，流域住民の川に対する愛着や川を誇りに思う意識は全体的に低いという．豊田さん曰く，「『この川いいですね！』と外から来た人に言われて，『そうだろ？』と誇りに思える哲学がないと地域変革はない.」という．そういう意味でも，子供たちに対する高津川環境教育は重要な意味があるという．本当は流域連携のようなネットワークを高津川にもつくりたいそうだが，上流域の集落では人が少ないこともあり，交流を行える団体がないという．上流域で川守をする団体を育てていくのが今後の課題のようだ．

次の日の早朝に高津川の河口付近（高角橋より下流）を歩いた．冷え込む早朝の空気の中，朝日が水面に照らし出される．河口域であるにも関わらず川底が透き通って見えるのはいかに高津川が清流かを表している．今回は時間がなく，河口域しか歩けなかったが，夏にまた訪問して，清流日本一の流域の美しさに酔いしれたい．

写真３：早朝の高津川（高角橋より下流左岸側）

４．佐波川

佐波川に学ぶ会 / しんすいせんたいアカザ隊

高津川を出発し，山陽側へ向かう．約２時間の電車旅．山口県防府市に向かう．防府駅を降りて出迎えてくれたのは，水の自遊人　『しんすいせんたいアカザ隊』の吉野くに子さん．高３の娘さんの智美ちゃんとは世界子ども水フォーラムの活動で一緒に活動してきた川仲間だ．残念ながらこの日は用事で不在．このアカザ隊というのは子どもたちが中心になって佐波川で活動するグループで，貴重な魚のアカザのように，子どもでも防災活動できるように日頃から訓練する自身らを貴重な存在という風に位置づけてこの名前になった．吉野さんは大人の世話人として事務局的な役割を果たされている．

吉野さんの案内でまず向かった先は防府天満宮．菅原道真公が地方に下る際に立ち寄った場所と言われており，天神様が祭られている．防府天満宮の高台から防府のまちを見下ろすと佐波川がまちの中を流れていっているのが分かる．上流の山の方には砂防堰堤が連続しているのが見える．案内していただきながら，着いたのは『佐波川に学ぶ会』の事務所．佐波川に学ぶ会の会長の吉松忠直さんにお話しを伺う．また，この日は日曜日にも関わらず，わざわざ，山口河川国道事務所の方や島地川ダム管理支所の方も出てきて下さっていた．佐波川に学ぶ会は，「母なる佐波川」（写真４）を合言葉に，子供達を佐波川に呼び戻すために啓発活動や河川敷の自主的な管理などの活動をしている．川で遊ぶアカザ隊の子供達とそれをサポートする佐波川に学ぶ会の大人たち．世代を超えて交流が生まれている．

調査に関するお話しやシート記入をいただいたあと，佐波川（直轄管理区間まで）の小野水辺の楽校，円筒分水などを案内していただいた．（円筒分水は個人的に好きなので，書きたいがまたの機会に.）

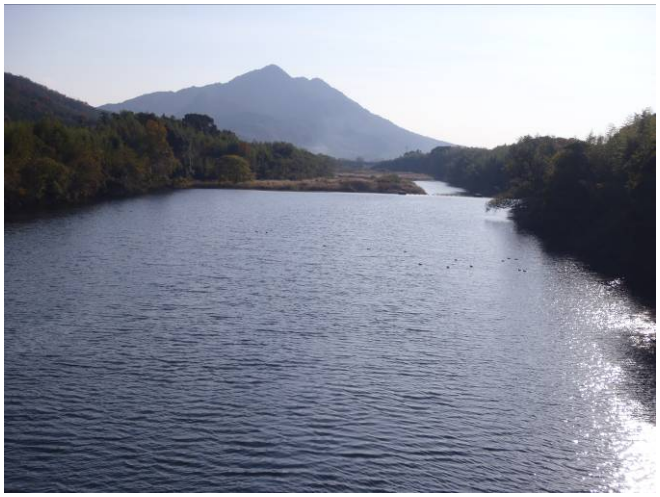


写真４：母なる佐波川

５．太田川

5-1. 太田川河川事務所１日事務所長イベント

川巡り３日目は広島市の太田川からスタート．朝から太田川河川事務所に向かう．この事務所には昨年の夏に夏期実習生としてお世話になり，懐かしい方々と再会できた．太田川に到着するたまたまこの日に河川事務所では３日前にＪリーグ優勝を決めたサンフレッチェ広島の GK，千葉選手を招いての『1 日事務所長イベント』（写真５）が実施されており，60 名近くの人で会場は埋まっていた．職員：「所長！太田川の水位が上昇しています！いかがいたしましょう？」，１日所長：「現場の状況が見たいので中継をつないでください.」ダム職員：「所長！温井ダムの貯水容量に若干余力がございます．温井ダムの放流量を減らす操作を行ってはいかがでしょうか？」１日所長：「それでは安全に気を付けて操作を開始してください.」１日所長は事務所の職員の方から洪水の危険性（想定）の報告を受け，指示を出す．敵チームからゴールを守る千葉選手，水害から広島を守る太田川河川事務所．守るものは違うが，「守る」気持ちの強さは一緒だろう．また，『太田川放水路』という昭和に制作された映画が放映されたが，今見ても見応えがある．（ストーリーとしては事務所に赴任してきた職員が，今から始まる太田川放水路の大規模建設に期待と不安を秘め，太田川放水路の完成を目指す物語.）多くの一般の方やマスコミがこのイベントに参加をしていたが，日頃見られない事務所の災害対策を広く一般の人に知ってもらえるため，効果的な防災啓発方法ではないかと思う．（また，偶然にもサンフレッチェ広島が優勝したのもイベントを盛り上げている.）１日太田川河川事務所長の報告はこちら．

http://www.cgr.mlit.go.jp/ootagawa/topics/news/20121127ichinichi.pdf（太田川河川事務所 HP より）

写真５：千葉選手による１日太田川河川事務所長

5-2. 中国地方整備局/
NPO 法人雁木組 / ポップラ ペアレンツクラブ

午前中のイベントを終え，中国地方整備局へ．子ども水フォーラムの頃からお世話になっている田中計画課長へご挨拶．今回の中国地方の市民団体調査にあたり，事前に情報提供いただいた今回の旅の強力な応援団だ．田中課長に明日からの行程を説明すると，それぞれの川の見どころや治水計画を教えていただいた．その中でも，早朝の江の川の三川合流の風景はおすすめだということで明日の江の川の楽しみにしておく．

整備局を出て，太田川の市民団体の方からお会いするまで時間があり，少し市内の太田川を散策．昨年夏に滞在していた場所とあって懐かしい．『ポップラ ペアレンツ クラブ』と『雁木組』の方から「ぜひ元町環境護岸を見ておいで.」と言われたので，見学に．広々とした緩傾斜護岸には伝統的な船着場『雁木』と河川敷に一本そびえるポプラの木（写真６）．この元町環境護岸を見たあとこの２つの団体の方にお話しをお聴きした．（2 団体の方とも，お仕事をされていてご多忙にも関わらず，夕方仕事が終わってすぐに駆けつけて下さった.）ポプラや雁木を太田川のシンボルとして，川からまちづくりを進めていこうと発足した団体で水辺オープンカフェや水辺ジャズコンサート，雁木タクシーなどユニークかつおしゃれな活動を展開している．今でこそ国の政策として制度化された『かわまちづくり支援制度』だが，社会実験として，水辺でカフェなどを始めたのはここが初で，日本の川まちづくりはここがモデルケースとなってはじまったのだろう． いろいろお話を聞く中で意外だったのが，太田川流域に市民団体が非常に少なかったこと．通常なら１流域あたり 40 近くは団体があるが，人口の多い広島市内ですら 5 団体程度．どういう理由なのかは今後考察の余地がある．

写真６：元町環境護岸のポプラと雁木

6. 江の川
6-1.『三川合流の奇跡』を求めて

広島市内を出て，列車で三次に．窓越しに寒い冷気が入ってきて，市内よりもだんだんと寒くなっていくのが感じられる．明日お会いする三次河川国道事務所の方からも「三次はかなり冷えるので，防寒対策だけはしっかりしてきて下さい.」とわざわざ注意のご連絡をいただいたほどだ．念入りに着込む．

三次には夜遅くに着いたが，早朝にどうしてもやりたいことがあった．前日に田中課長が言われた『三川合流の奇跡』というものをぜひこの目でみてみたい．これは田中課長が中国地方整備局内の通信誌に投稿した表紙の写真タイトルのことで，早朝の三次盆地に川霧が雲海のごとく立ち込める中，朝日が差し込むまさに奇跡と呼ぶのにふさわしい光景だった．

早朝にホテルを抜け出し，まだ暗いうちから三川合流点を歩き，その後合流点が展望できる高谷山を目指した．（本当は自転車で登りたかったが，ホテルには１台しかなかったのと，奇跡の時間に間に合わない可能性があったので仕方なくタクシーで）残念ながら川霧はなかったが，朝日が昇るにつれて，三川がくっきり見えた（写真７）．上は私が撮影した三川合流．下が本当の『三川合流の奇跡』（写真８）だ．

写真７：江の川三川合流（筆者撮影）

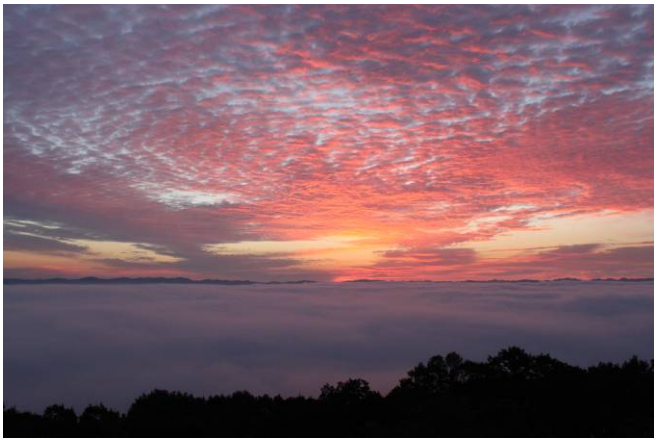


写真８：三川合流の奇跡（田中里佳さん撮影）

6-2.三次市役所 / 灰塚ダム / ウェットランド団

高谷山を下りてホテルに戻り，出発支度を済ませ，三次市役所に向かった．実は三次市役所には，元遠賀川河川事務所長の津森貴行さんが副市長として出向されており，久々にお会いしたく訪ねた．遠賀川事務所長時代には，子供達のイベントや中高生の活動にもよく参加いただいた．会議が立て込んでいるお忙しい時に快く面会してくださった．「遠賀川の皆さんはどうされてる？僕はあれからすっかりご無沙汰していてね，遠賀川みたに江の川にもたくさん市民活動が芽吹かないかなと考えているところだよ．」と昔の遠賀川での話に盛り上がった．一度遠賀川でできた川のご縁が江の川でまた繋がったのは本当に川の縁とは不思議なものだ．

三次市役所を出てから三次河川国道事務所へ．三次河川国道事務所の方に江の川流域について流域をめぐりながらレクチャーいただく．朝，高谷山に三川合流の奇跡を見に行った話をしたら，逆に川霧が無いのは運がいいと言われた．その後，灰塚ダムへ．灰塚ダムで驚いたのは自由に監査郎の中が一部通れること．さらに監査郎内にはパネルが展示され，FM ラジオまで流れていて，暗いじめじめした印象を払拭している．ダムの流入河川から流れ込む負荷量が大きいため，副ダムをつくり湿地帯（知和ウェットランド）を設け，汚染改善を図ったり荒地化を防いだりしている．2005 年にはどこからともなく，コウノトリが飛来した記録もあるそうだ．ここには知和管理棟（写真９）があり，そこで活動するウェットランド団の岩水正志さん（農学博士）に活動を伺った．ウェットランド団は灰塚ダムの水源地ビジョンを考える際に発足した団体で，野鳥観察やカエルの保護など環境教育に力を入れている．しかしながら，もともと人口の少ない地域でもあることから，現在 6 名の会員しかおらず，継続が課題になっている．

写真９：知和ウェットランド管理棟

７．芦田川
八田原ダム / 芦田川環境マネジメントセンター

江の川流域を越え，芦田川流域に．八田原ダムにつき，ここから八田原ダム管理所と福山河川国道事務所の方が説明して下さる．たまたまこの日はダムの点検で，利水放流管から約 2.7m³/s の水が放流されていた．ダム堤体の直下に降りて放流管の間近でみるとすさまじい勢いで放水されていた．2.7m³/s と聞くとピンとこないがこれなら実感が持てる．今度から流量を感じるものさしの一つになりそうだ．

ダムを見た後，芦田川流域を下って行く．芦田川は中国地方で一番汚い川という汚名が長年続いている．流域の下水道普及率は 40%台と大変低い上，流量も年平均 3 億m³ と中国地方一少ない．さらには流域人口密度は 313 人/km² と中国地方で 2 番目に高いのに伴い，水利用も多い（福山河川国道事務所調べ）．このような悪条件が重なっているのが，水質ワースト１の要因だろう．下水道普及率，人口密度，水利用などの傾向は九州水質ワースト１の遠賀川に類似している．不名誉な記録を払拭するために，支川の高屋川に浄化施設をつくり，水を処理している（写真１０）．

行政としてもあらゆる方法で水質改善を努力している芦田川だが，市民活動としても活発だ．芦田川には『芦田川環境マネジメントセンター』というグループ（川嶋康彦さんにお話しを伺う）があり，中国地方水質ワースト１の芦田川をなんとか変えようとあらゆる方法を導入している．特徴的な活動では，『河川浄化チャレンジ月間』の推進で，ある特定の地区で排水溝に汚れを流さないお願いを１か月間集中的に行い，取組前と取組後で目に見える形で水質変化の結果を示している．このような見える化啓発はゴールの見えない闇の中に陥りやすい啓発活動にメリハリをつけて大変戦略的かつ有効だと感じた．

写真１０：高屋川浄化施設を経て河川に戻る水

８．旭川

旭川流域ネットワーク～140 年間の壮大な夢～

旅も 5 日目と後半戦. 今日で山陽側は最後だ. まず，向かったのは岡山河川事務所．岡山河川事務所は高梁川，旭川，吉井川の三河川を管理している．ここでも市民団体に関する情報収集．意外なことに 3 河川同程度の流域の大きさにも関わらず，高梁川には全く市民活動が見当たらないという． ただ単に事務所の情報不足だけとは思えない．なにが原因かは今後探る必要がある．

事務所で話を聞いた後，今日めぐるのは旭川．旭川流域ネットワーク（以後 AR-NET）の竹原和夫さんに案内していただく．

竹原さんは元国土交通省にお勤めの方で，国交省の立場でもありながら，自らが市民活動の世話人として大変ご尽力された方だ．今日はこのネットワークが平成 14 年に建てた源流の碑の補修記念の除幕式が旭川支流の白賀川渓谷であるそうなので，参加させていただくことに．AR-NET の源流の碑の活動はユニークで，1 年間かけてやっと源流の碑が建つ．源流から木を伐りだし，年初めに加工．加工してできた源流の碑を『リアカー』で運ぶ．ただ運ぶだけでない．上流から下流域へ．そして下流域から再び上流域へと流域中の至るところでその集落の住民と汗を流しながらリアカーを牽き，丸 1 年間かけて運ぶ．普通の感覚では到底理解でないかもしれないが，流域の至る所へリアカーを牽くことで，一つ一つの集落の川守を訪ね，「お前のところの川は元気か？」と交流できるのだという．こんなにも汗を流す流域連携は日本中探してもここだけだろう．また，普通，源流の碑の建立と言えば，本川の源流に一本立てて終わり．しかしこの流域は違う．旭川流域にある 140 本の支流全てに源流の碑を建てようと毎年 1 本ずつ各支流に源流の碑を建てている．今年で 16 本建ったそうだが, 壮大な 140 年の夢だ(写真１１)．文明社会の現在からすると，こんなにも効率の悪いことはないだろう．しかし流域中の住民が 1 つの川に建てる 1 本の源流の碑のために汗を流す．本当に美しく壮大な活動だ．昨今の外資による水源地買占めなどが問題化してきているが，このような川守活動が本当の意味で有効な保全対策だろう．どの流域も真剣に源流と向き合わなければならない時代がきている．

白賀渓谷に着くと上流域の住民の人達も中流域，下流域からお祝いに駆け付けた人も源流の碑を囲んで酒を酌み交わしお祭り騒ぎ（写真１２）．白賀渓谷でとれたアマゴの塩焼きや鹿肉，温かい豚汁がおいしかった．源流に高くそびえたつ源流の碑を見ながら竹原さんは語ってくれた．「最初の 2～3 年は本当に辛かった．雨の降った日なんかは誰も来ない日もあって，しょうがないから一人でリアカーを牽いたこともあった.」竹原さんの目からは涙がこぼれていた．行政の立場でありながら休日は 1 住民となってリアカーを牽く．中国地方の河川はほとんど流域連携ネットワークが見られないが旭川がこんなにも流域連携ができているのは竹原さんのご尽力の賜物の他でもない．笑い話で流域のどこを歩いていても「あら竹原さん！」と声をかけられるから悪いことはできないとおっしゃっていたが，それだけくまなく流域中を歩かれたことの裏返しだろう．来年は僕もリアカーを牽きに行こう. 140 年先を見据えた壮大な夢ははじまったばかりだ.

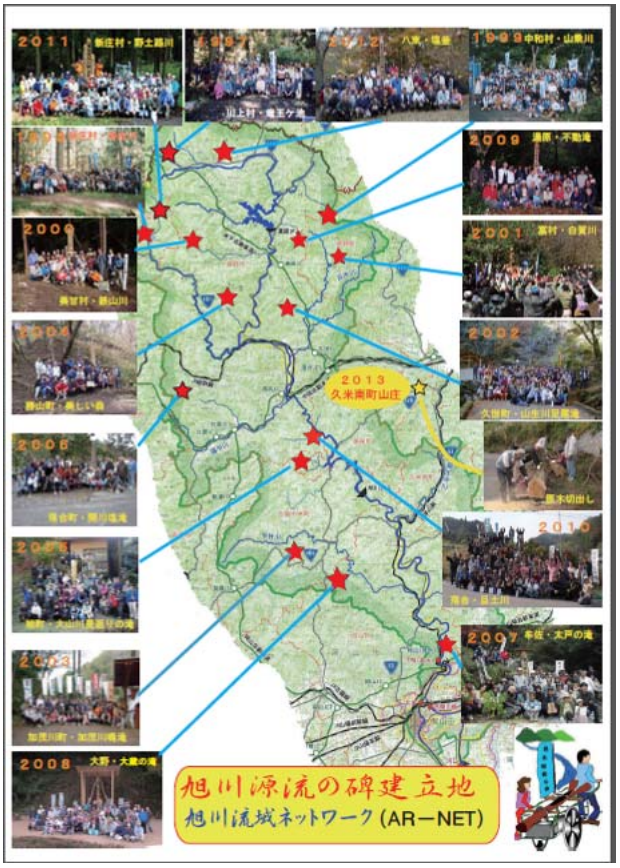


写真１１：16 年目の源流の碑建立状況（AR-NET）

写真１２：源流の碑の周りで乾杯！

９．千代川

NPO 法人八東川清流クラブ

旭川源流で美酒に酔いしれた後，美作落合駅から鳥取へ．今回は車窓から吉井川を眺め素通り．吉井川はまた今度行こう．

鳥取市内に一泊し，今日は千代川スタートで鳥取３河川（千代川，天神川，日野川）の情報を集めつつ，松江まで行き着かなければならずこの旅一番のハードスケジュールの到来だ．まず朝向かったのは千代川の支流の八東川へ．ここで NPO 法人八東川清流クラブ事務局長の矢部博祥さんにお会いした．矢部さんはつい数日前まで議員の仕事でブラジルに行かれていて，お疲れであろうところご対応いただいた．八東川清流クラブは 2008 年 10 月に活動をスタートし，八東川流域の風土の美しさを後世に伝えていくことを使命に活動されている．

矢部さんの案内で，近くの八東川を見に行く．八東川の『徳丸どんど（写真１３）』を見に行った．徳丸どんどとは，扇ノ山が噴火した際に形成された溶岩河床が何万年も間に徐々に浸食され，落差のある地形をつくりだした．この穴が弓型になっているのは，中央部の方が常に水が流れるため，浸食がより進んだ結果だという（徳丸どんど研究会のどんどの碑より）．まさに天然のプールだ．固い河床から柔らかい河床に移行した場合にできるという見事な S 型の淵だ．また，このすぐ上流には八東川清流クラブさんが子供達に川遊びをさせるポイントもある．またこの地域はフルーツラインと呼ばれていて，20 世紀梨，西条柿，リンゴなど様々な果樹園がある．（僕たちもお土産に柿をいただいたが熟成された甘さが口に広がりおいしかった．）このような地域資源を上手く活用し，もともとつながりが薄いこの地域の地域間のつながりを強固にしていきたいという．こんな稀有な八東川の資源を活かさない手はないだろう．

写真１３：八東川と徳丸どんど

１０．鳥取３河川（千代川，天神川，日野川）

各河川事務所と鳥取県地域づくりセンター

八東川に行った後は事務所を中心に周った．３河川まとめて述べる（表２）．３河川とも市民主導の流域連携ネットワークはなかった．しかしなんらかのかたちで流域連携活動を進めていこうとしているようで，今後の課題だという．中でも，倉吉河川国道事務所で伺った『菜の花プロジェクト（写真１４）』は子どもが「何もない天神川に春くらい菜の花が咲いたら綺麗だし，ごみも捨てなくなるんじゃないか」という提案からはじまったという．最近では子供から市長に対する提案なども行われていて，大人達が一丸となってこの子供達の活動をサポートしているという．鳥取県の川の未来は明るそうだ．

また，鳥取県の住民団体の情報を収集している，『鳥取県地域づくりセンター』の福田京子さんを訪ねた．このセンターは鳥取県から地域づくりに精通した民間の方に委託されている組織であり，鳥取県のあらゆる地域づくりの情報を収集している．登録団体のリストを見せていただくと，ざっと 100 近くある．お忙しい中，これらの団体に関する調査のご協力をご快諾いただいた．「今の子はほんと，なかなか川で遊ばないのよ．」こんな名流が近くにあってもこの状況．ここでも川ガキは絶滅に瀕している．

表２：鳥取３河川事務所ヒアリングによる活動実態

事務所名	管轄河川	市民団体数（事務所調べ）	流域の市民活動の特徴
鳥取河川国道事務所	千代川	4	市民による流域連携ネットワークはないが，千代川流域圏会議を設置している．流域圏会議の参加者によって，千代川の魅力を紹介する『千代川マップ』を発行．
倉吉河川国道事務所	天神川	6	それぞれが個々に活動しているため連携はないが，行政主導の天神川流域会議を設置している．中国地方で一番子どもの水辺登録数が多い（5か所）．また，子ども達の提案からはじまった菜の花プロジェクトを行っている．
日野川河川事務所	日野川	2	流域連携ネットワークはないが，年に一度一斉清掃として，『日野川を美しくする会』を実施している．

写真１４：小中学生の発案の菜の花プロジェクト

１１．再びの斐伊川

島根大　佐藤裕和先生 / NPO 法人さくらおろち

鳥取 3 河川の強行スケジュールを終え，島根県へ向かう．　夜 19 時半頃に松江に到着．中国地方をやっと一周してきた．松江市内で佐藤裕和先生にお会いする．佐藤先生は古賀河川図書館に以前いらしたことがあるそうで，島根に行くならぜひ一度お会いしたほうがいいと古賀さんにご紹介され，お時間をいただいた．研究室の 4 年生もきており，白川研 3 名と計 5 名で食事をした．やはり話題に上がるのは川の話ばかりで，どの川に行ったとか，あの川の地形が怪しいとか話は尽きない．「川の話をし始めるときっと朝まで終わらない．」と佐藤先生．中村晋一郎先生にも「彼の話は面白いよ．」と聞いていたのでどんな先生だろうと思っていたがその通りの先生だった今度はぜひ川の踏査にご一緒させていただきたい．

翌日，今日で最終日となり，松江スタートで斐伊川流域の宍道湖沿いを進む．今日は後輩の W 君の『水辺空間の親水性調査』も行う．あらかじめ定められたチェック項目を宍道湖湖岸 500m ごとにチェックする．朝の宍道湖の湖面には何隻ものシジミ漁の船が浮かんでおり，きらきら光る水面と漁師さんの風景が情緒的だ（写真１５）．その後，宍道湖自然館ゴビウスに立ち寄り，宍道湖の生物達を見学．中海は海水の 1/2 の塩分なのに対し，宍道湖は海水の 1/10 の塩分なのだそうだ．それをつなぐ大橋川は塩分が混じりあう特殊な河川環境であり，一部の種にとっては大変貴重なハビタットだ．

その後，宍道湖に注ぎ込む斐伊川の流入部を見てそこから斐伊川を遡り，尾原ダムを目指す．尾原ダムで NPO 法人さくらおろちの亀山幹生さんにお会いした．実は亀山さんとは 9 月に『いい川・いい川づくりワークショップ』でお会いした．斐伊川上流の尾原ダムが完成し，ダム湖の名前がさくらおろち湖となり，ダム湖を活用して，活動を開始している．ある時，フェイスブック上でロックフェスタを，スタジオを借りてやる予定だった若者が中止せざる負えない状況に陥ったことをつぶやいたのを見て，「よかったらこのダム湖を活用してくれ．」と全面バックアップしてさくらおろち湖のほとりでロックフェスタを開催したという．当日は総勢 600 人ほどの人で賑わったとか．ダム湖の新しい利活用の形だろう．

尾原ダムを出たあと，斐伊川を下る．下ると途中に斐伊川特有の砂州『複列砂州（うろこ状砂州』だ．このあたりははるか弥生時代から行われていた，鉄採掘の鉄穴流し（岩石を山から切り出し破壊し，川や水路に流しその砂鉄を取る手法）で有名で，近くにはたたら製鉄跡もある．大量の土砂が河川に流れ込んでこのような河床形態を形成した．この幾重にも複列する砂州を見ていると今に伝わるヤマタノオロチ伝説も由来の場所になったのも想像できる．

さらに斐伊川を下ると，突然川の左岸側に大きな重機が．これが斐伊川から神戸川に水を流す斐伊川放水路である（写真１６）．左岸側のある区間からずっと川が彫ってある．ここがいずれ川になるのかと思うと圧感の大工事である．この工事により，神戸川とつながり，斐伊川流域となることになる．

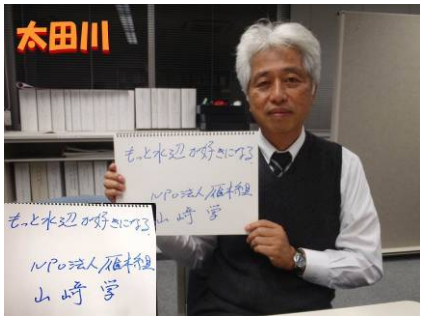
この放水路をはじめ，斐伊川には治水 3 点セットの計画がある．斐伊川の洪水を解消するために斐伊川放水路の建設，上流の尾原ダムの建設に，宍道湖と中海をつなぐ大橋川の拡幅による治水対策だ．現在のところ尾原ダムが完成，斐伊川放水路が着工中，大橋川拡幅が一部開始のようだ．未完成なので，地図には細い点線でしか表示されていないが，あまりのでかさに．斐伊川放水路のでかさに驚きながら，最終行程地出雲河川事務所に伺い今回の調査終了．

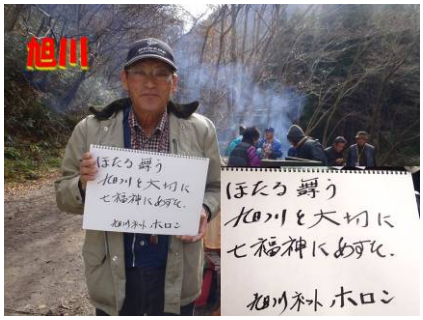
写真１５：親水調査をする後輩と湖面のシジミ漁船

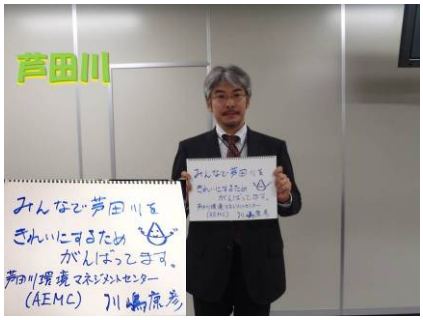
写真１６：斐伊川放水路建設現場

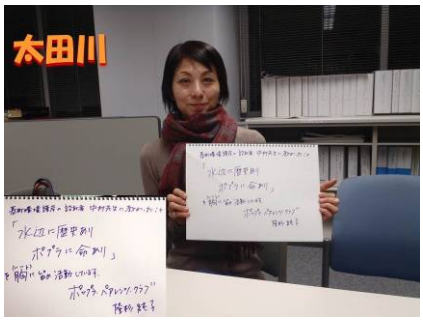
１２．旅の終わりに

最後の出雲河川事務所でも大変親切に対応していただき，今回の調査行程が終了．終わった時間 15 時半．夜行の時間まで時間があるので，再び出雲大社へ．今回全ての行程を無事に終えることができ，さらに大変すばらしい縁結びもしていただいた神様達に報告と御礼を申し上げに．参拝直後にちょうど神去祭がはじまったので，参加してみることに．宮司さんが祝詞を述べ，神々のご退室を奉っている．神在祭にはじまり，全てが終わったタイミングでの神去祭と縁起の良さは申し分なかった．また，それだけでなく，今回も本当に多くの方々に様々な形でサポートをしていただいた．サポートが無ければ最後まで首尾よく行程を終えることはできなかったと思う．この場を借りて御礼を申し上げます．そして，一緒に来てくれた後輩の協力が非常に大きい．鉄道なら全て任せろと最初から最後まで自らが歩く時刻表となって旅程管理をしてくれた鴨志田穂高君．集中授業が終わり次第応援に駆け付け，タイトな山陰側の行程で運転をかってでてくれた若林洋貴君．一緒に周ってくれてありがとう．今年もあとわずか．今年も一年お世話になりました．皆様良いお年をお迎え下さい．









- 滞在日数：7日間（夜行列車含んで9日間）
- 鉄道移動時間（夜行含む）：約40時間
- ダムカード獲得枚数：3枚
- 訪ねた学習館等：3施設
- 訪ねた河川事務所等：11機関
- 名刺交換した人：31名
- 旅をサポートしてくれた友人：2名
- 出会った行政の人：30名（推定）
- 出会った市民団体数：16団体
- 旅で出会った人：200名以上

【筆者について】

坂本 貴啓（さかもと たかあき）

1987 年福岡県生まれ。北九州市で育ち、高校生になってから下校途中の遠賀川へ寄り道をするようになり、川に興味を持ち始め、川に青春を捧げる。高校時代にはYNHC（青少年博物学会）、大学時代ではJOC（Joint of College）を設立して川活動に参加する。自称『川系男子』。いつか川系男子や川ガールが流行語になることを夢みている。

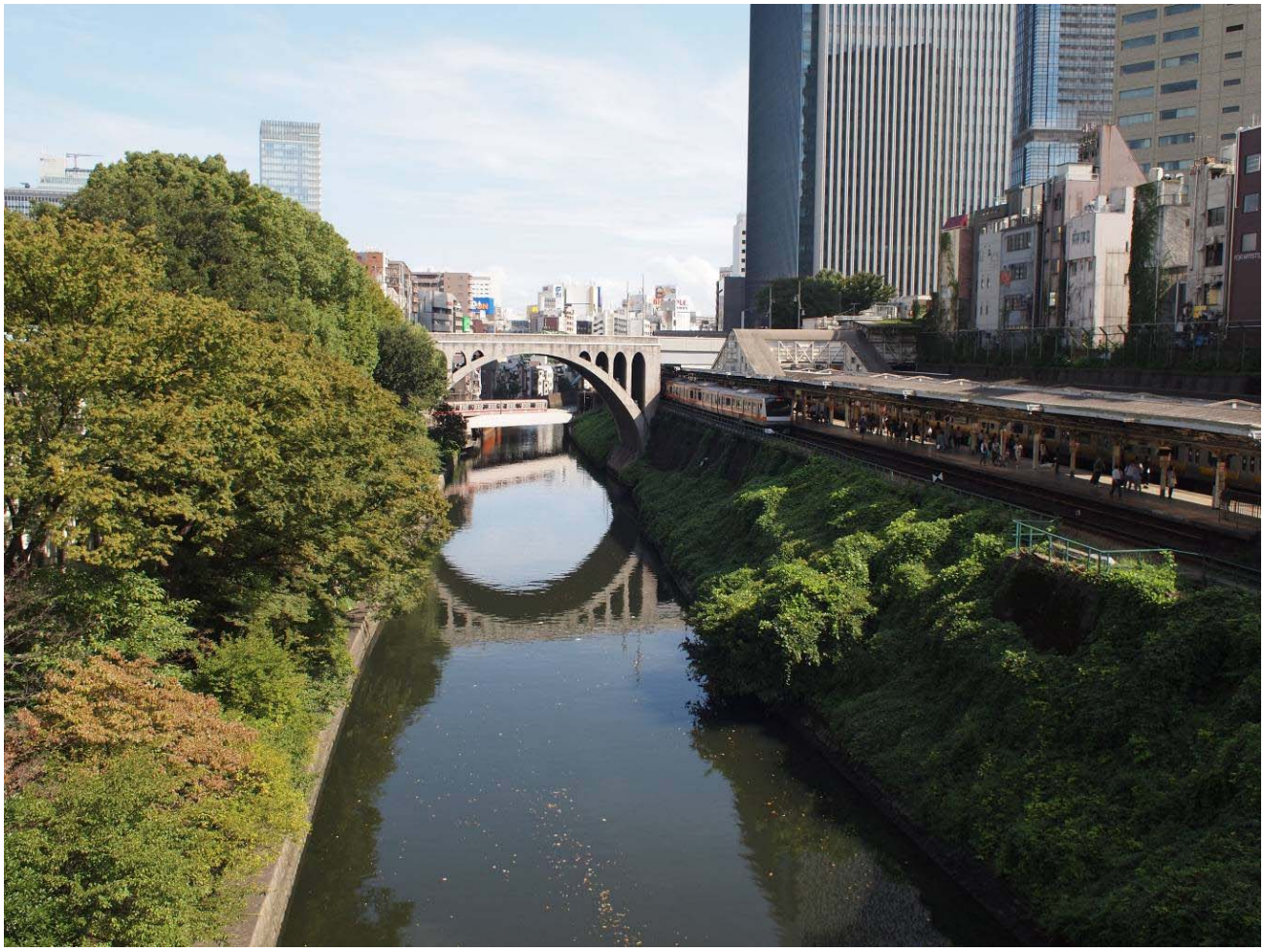
筑波大学大学院 生命環境科学研究科 環境科学専攻 博士前期課程在学中。白川直樹研究室『川と人』ゼミ所属。研究テーマは『河川市民団体における活動量の定量化』と題し、流域の水質・水量の将来予測や河川市民団体の特性について研究中。最近のお気に入りは日本河川図を眺めること.

会員寄稿記事(2)

水辺からのメッセージ No.43

国土文化研究所　特任研究員　岡村幸二（JRRN 会員）

人がつくった橋・鉄道・川：
江戸時代に開削された神田川に広がる水と緑の景観軸



撮影：2012 年 9 月（東京都・文京区湯島）

◆近代化の中で新しい景観をつくる

お茶の水橋から望む神田川と聖橋の風景は 100 年前にはなかった近代化象徴の景観です。東京の地と低地の高低差は神田川、丸の内線、中央線、総武線、聖橋と 5 重の立体構造を作り出しました。平成 21 年には「神田川水景色」として文京区の都市景観賞を受賞しています。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

会議･イベント案内（2012 年 12 月以降）

（JRRN/ARRN 主催･共催の会議･イベント）

現在企画中

（河川再生に関する主なイベント）

■基礎水理シンポジウム２０１２
○日時：2012 年 12 月 3 日(月) 9:30～16:30
○主催：土木学会水工学委員会基礎水理部会
○場所：土木学会講堂 (東京都新宿区四谷一丁目)
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1586.html

■東京都農業用水シンポジウム
○日時：2012 年 12 月 5 日（水）13:30～16:30
○主催：東京都土地改良事業団体連合会
○場所：立川市女性総合センター
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1596.html

■平成 24 年度河川情報シンポジウム
○日時：2012 年 12 月 7 日（金） 10:00～16:20
○主催：財団法人 河川情報センター
○場所：ベルサール半蔵門（東京都千代田区）
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1598.html

■流域圏シンポジウム「流域圏の物質輸送に関する実態評価の現状と課題」
○日時：2012 年 12 月 14 日(金) 13:00～
○主催：土木学会水工学委員会環境水理部会 他
○場所：ラゾーナ川崎プラザソル
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1590.html

■第 174 回 河川文化を語る会『多摩川源流の魅力と価値､その可能性を語る～源流を生かした村づくりへの挑戦～』
○日時：2012 年 12 月 14 日（金） 18:00～20:00
○主催：公益社団法人 日本河川協会
○場所：厚生会館（全国土木建築健保）
http://jp.a-rr.net/jp/news/member/807.html

■平成 24 年度川に学ぶ全国事例発表会
○日時：2013 年 1 月 18 日（金） 13:00～18:00
○主催：子どもの水辺サポートセンター
○場所：TKP 小伝馬町ビジネスセンター
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1594.html

■第 175 回 河川文化を語る会『近年の気候変動と将来の気候変化について』
○日時：2013 年 1 月 22 日（火） 18:00～20:00
http://jp.a-rr.net/jp/news/member/824.html
○主催：公益社団法人 日本河川協会
○場所：厚生会館（全国土木建築健保）

■第 6 回近畿「子どもの水辺」交流会
○日時：2013 年 2 月 9 日（土）
○主催：近畿「子どもの水辺」交流会実行委員会
○場所：ドーンセンター（大阪府立男女協働参画・青少年センター）
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1550.html

■第 176 回 河川文化を語る会『花を支える。花で支える。～サクラソウ保護と塩害花壇の再生～』
○日時：2013 年 2 月 15 日（金） 18:00～20:00
http://jp.a-rr.net/jp/news/member/842.html
○主催：公益社団法人 日本河川協会
○場所：厚生会館（全国土木建築健保）

皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！
全国で河川再生に向けた様々な行事が開催されています。ローカル情報の PR や共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。（JRRN 事務局）

書籍等の紹介

■ PRAGMO 日本語版 河川及び氾濫原再生の順応的管理に向けたモニタリングの手引き（2012.11 発刊）

・発行：ARRN、JRRN
・監修：白川直樹 筑波大学システム情報系 准教授
・翻訳：JRRN 会員ボランティア（10 名）
・編集：筑波大学白川（直）研究室『川と人』ゼミ等

※本冊子の入手方法
本手引きをご希望の方は､本誌の 1 ページ目をご覧ください。

■ アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.2（2012.2 発刊）

・発行：ARRN、JRRN
・監修：ARRN 技術委員会
・編集：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

※本冊子の入手方法
本手引きをご希望の方は､JRRN 事務局までご連絡ください｡JRRN 会員限定サービスとさせて頂き、送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。非会員の方は､JRRN 会員登録（無料）後にお申込下さい。
info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。

市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

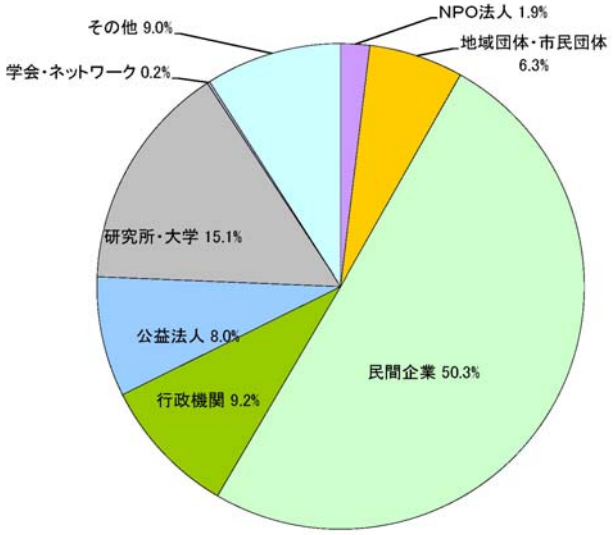
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

(1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
(2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
(3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
(4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
(5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧下さい。

http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html



2012 年 12 月 6 日時点の個人会員構成
（個人会員数：585 名、団体会員数：48 団体）

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員（一般）
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール（週1回）の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter（毎月）及び年次報告書（年1回）等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュール（ARRN Newsletter等）の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照： http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html

【発行・問合せ先】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)　事務局
公益財団法人リバーフロント研究所　内
〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号　新川中央ビル 7 階
Tel:03-6228-3862　Fax:03-3523-0640　E-mail: info@a-rr.net　URL: http://www.a-rr.net/jp/

JRRN は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

公益財団法人 リバーフロント研究所　　CTI 株式会社建設技術研究所 国土文化研究所